

## 道立高等学校等の生徒の道内大学への派遣・交流事業（札幌会場）

### 1. 目的

道立高校等の生徒を留学生の在籍する道内大学に派遣し、留学生との英語による交流や、大学の講義の受講、研究室訪問等を通して、生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上及び派遣先大学についての理解の深化を図るとともに、国際的な視野を育み、海外と積極的に交流しようとする意欲の向上を図る。

### 2. 主催

北海道教育委員会、国立大学法人北海道大学

### 3. 実施時期

令和3年(2021年)10月18日(月)～19日(火)

### 4. 実施方法

ウェブ会議システムによるオンライン実施 (Zoom Meetings)

### 5. 参加者

全道の道立高等学校等19校から24名（1年生13名、2年11名）が参加

### 6. 日程

	時 間	内 容
1 日目	9:15～ 9:25	開会式
	9:25～ 9:30	オリエンテーション
	9:30～10:10	ワークショップ第一部「自己紹介・ディスカッション」
	10:20～10:50	留学生との交流「母国紹介・質疑応答」
	11:00～12:00	ワークショップ第二部「SDGsアクションプラン」
	13:00～14:45	留学生によるプレゼンテーション・バーチャル研究室ツアー
	15:00～15:50	大学院生による留学経験等の講演1「中国・カナダ」
2 日目	9:10～ 9:50	大学院生による留学経験等の講演2「フィンランド」
	10:00～11:00	大学の講義体験「外国語としての関西弁」
	11:10～11:40	参加者によるスピーチ
	11:40～11:50	リフレクション
	11:50～12:00	閉会式

## 事業の様子

1日目・10月18日（月）

開会式では、主催者である北海道大学及び北海道教育委員会からの挨拶があり、続くオリエンテーションでは、プログラムの目的の確認や参加に当たっての留意事項の説明を行いました。

ワークショップ第一部では、函館中部高校の木村先生が講師となり、参加者はグループに分かれ、自己紹介やディスカッションなどの言語活動に取り組みました。

参加者からは「オールイングリッシュだったので、海外にいる気持ちになりました。」「普段は自分からあまり発言できない方だけど、今回は間違いを恐れず、発言できるいい機会になった。」などの感想がありました。



【ワークショップ第一部】



【留学生との交流】

留学生との交流では、中国・インド・韓国・カナダからの留学生を講師に迎え、4つのブレイクアウトルームで、母国紹介のプレゼンテーションや質疑応答を行いました。参加者は関心のある国からの留学生のブレイクアウトルームに入ってプレゼンテーションを聞き、留学生とのコミュニケーションを楽しみました。

参加者からは「自分の中にある固定観念の範囲の狭さに気付いた。異文化を勉強する姿勢と理解を深めようという気持ちを持った。」「自分のつたない英語でも相手に伝わるのがわかった。これからは留学生やALTと話すことを恐れずに、楽しんでコミュニケーションを取りたい。」「同じアジアでも全然違う考え方や文化、習慣を持っていることがわかった。次は自分が日本の文化や習慣を伝える側になりたい。」などの感想がありました。

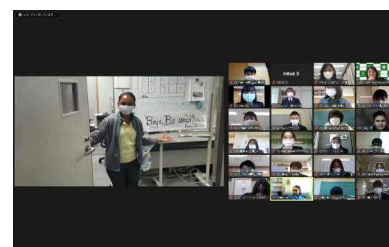
ワークショップ第二部では、再び木村先生が講師となり、SDGsに関する基礎知識を英語で説明した後、グループでの言語活動が行われました。生徒はSDGsに関するクイズに取り組んだり、グループでSDGsの実現に向けたアクションプランを検討したりするなど、英語でSDGsの学習に取り組みました。



【ワークショップ第二部】

参加者からは、「今までは17のゴールのおおまかな内容についてしか知らなかったが、SDGsの細かい内容や歴史について学ぶことができた。」「もともと知っていることも多くあったが、それをロールプレイング形式で、会社として何ができるのかということを考えるのは斬新だった。」「SDGsに関連した問題を実際に考えたことがなかったので、とても勉強になった。どんな企業、どんな人でも地球のためにSDGsの達成のための行動を取れるということがわかった。」などの感想がありました。

午後から行われた、留学生によるプレゼンテーション・バーチャル研究室ツアーでは、北海道大学の繁富特任准教授が進行役となり、留学生2名によるプレゼンテーションを行いました。プレゼン後には、留学生が研究室内をカメラで撮影しながら、研究内容についての説明を行いました。



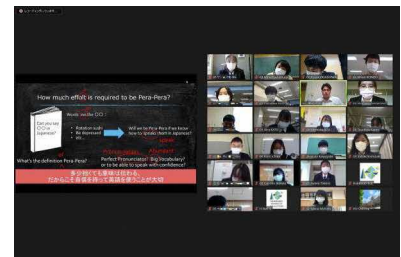
【バーチャル研究室ツアー】

参加者からは「他のプログラムと比べると英語の難易度が高く、半分くらいしか聞き取ることができず、自分の英語力がまだ不十分であることを痛感しました。」「専門的な用語など、難しい単語が多く、理解するのが大変なものもあったが、理解できるもの

もあり、勉強になった。」などの感想がありました。

大学院生による留学経験等の講演1では、北海道大学農学院の渡辺さんが講演を行いました。渡辺さんは「留学のすゝめ」と題し、10歳から18歳までの中国留学、18歳から22歳までのカナダ留学の経験を話してくれました。

参加者からは「自分も渡辺さんのように留学を通してチャンスを掴み、広げていきたいと思いました。つたない英語でもミスを恐れず対話を重ねることが大切だということに気付かされました。」「とにかく英語をたくさん使って、間違いを恐れずに挑戦することが最も大切だとわかった。コロナウイルスがいつ収束するかわからないが、大学生になったら留学に必ず挑戦する。」などの感想がありました。

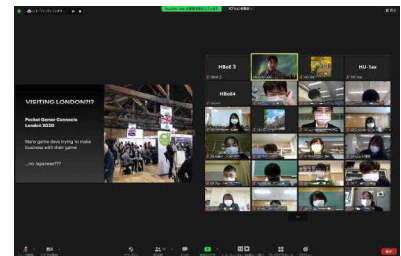


【留学経験者による講演1】

## 2日目・10月19日（火）

大学院生による留学経験等の講演2では、「ほっかいどう未来チャレンジ基金第3期生」である北海道大学情報科学院の有働さんが、ソフトウェア開発を学ぶため、フィンランドのオウル大学に留学した経験について、講演を行いました。

参加者からは、「今回のプレゼンを聞いて、北欧にも留学したくなった。それぞれの国にそれぞれの良さがあることがわかったので、慎重に留学先を選びたい。」「周りにある問題から自分のやりたいことを見つけ、それを留学に生かす考えが素晴らしいと思いました。私もその問題を見つけるために、まずはアクティブになろうと思います。」などの感想がありました。



【留学経験者による講演2】

大学の講義体験では、北海道大学の山下教授が、普段は留学生向けに行っている授業を、参加した高校生向けに行いました。「外国語としての関西弁」と題した、言語学的な視点から日本語の方言を考える授業を通して、参加者はこれまで意識しなかった言語習得における音声の重要性を再認識することができました。



【大学の講義体験】

参加者からは「大学の講義って面白いと思った。なるほどと思う場面があり、思わず声を出してしまった。」「関西弁も1つの言語であり、イントネーションの独特さが中国語や英語と似ていて、日本語から外国語を学ぶいい機会になりました。」などの感想がありました。

参加者によるスピーチでは、プログラムに参加した感想と今後の抱負を1分間でスピーチしました。参加者からは「一人一人、様々な思いでこのプログラムに参加していて、自分以外にも英語を深く学びたいと思っている人はたくさんいるということを改めて実感した。これからさらに英語力に磨きをかけなければという思いを持つことができた。」「同じプログラムを受けていても参加者によっていろいろな感想を持っていて面白かった。同じ日本人でも全く同じ考えの人はいないということ、他の国となれば尚更だと実感できるスピーチだった。」などの感想がありました。



【参加者によるスピーチ】

プログラムの締めくくりである閉会式では、主催者による挨拶や参加者に対する修了証の授与などを行いました。

プログラム全体を振り返って、参加者からは「今回、コロナ禍ということもあり、オンラインでの開催となりましたが、充実したプログラムばかりで、自分自身の英語力はもちろん、対話力の向上を感じました。また、自信を持つこと、ミスを恐れずたくさん話してみることで、アクティブになることが外国語を学んだり、異文化を交流したりする上でとても大切なことだと気付きました。

今まで、頭の中で正確な文章を探って言葉に出していたけど、間違ってもいいから伝えてみる、挑戦することが、私には必要なのだということが、この2日間を通してわかりました。」「開催地が北海道大学からオンラインになってしまったと聞いたときは、コロナ禍だから仕方ないと思う反面、やはり少し残念な気持ちになりました。いざ当日になると、そんな気持ちになったことも忘れるくらい楽しむことができ、ものすごく自分にとって有意義な時間を過ごすことができたと感じています。ワークショップでは、これまでSDGsについて詳しく知らなかったのですが、プログラムを通して新たに知識を得ることができました。また最近外国人との交流が減ってしまっていたのですが、留学生との交流では、たくさんコミュニケーションを取ることができてすごくうれしかったです。大学院生による講演では、この先の人生で大切にすべきことをたくさん教えていただくことができました。これらの活動すべてを通して、自分自身を少しでもレベルアップさせることができたと思っています。」などの感想がありました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、対面実施からオンライン実施になりましたが、24名の参加者は、留学生や大学教員、留学経験者、他校生徒との関わりの中で、英語力の向上や大学の授業等についての理解の深まりを大いに実感することができました。また、「海外留学」という同じ目標をもった仲間や実際に留学を経験した先輩方との出会いを通して、改めて海外留学に対する意欲を高めるとともに、自らの進路実現に向けて決意を新たにしていました。



【閉会式】